

1 事業総括

新たな指定管理者として運営を開始し、関係機関、特人厚、法人全体からのサポートを受け運営を軌道に乗せることができた。受託当初から住み着いていたトコジラミ根絶のため、専門業者を入れ32居室で駆除を実施。個室対応不可の中でのインフルエンザ対応、喫煙室設置工事による居室閉鎖などの困難な状況を抱えながらも、入所実績148人（目標数155人）、年間平均居室稼働率99.9%と、102%の目標には届かなかったものの、更生施設としての一定の役割を果たすことが出来た。

利用者支援では事業団支援マニュアルを活用し、積極的に働きかけ、地域につながる支援への方向転換を図った。入所前見学を約7割の入所希望者に実施し、目的意識を醸成。通院や各種手続きの同行による安心感の提供、心理相談等を活用した的確なアセスメントの実施、地域生活を念頭においた各種現金支給の拡大等も行った。また、朝礼・引継ぎ・欠食時の訪問による声かけルールを決め、業務日誌・ケース記録の内容も変更し、利用者支援における職員の意識改革と視点の共有化を図った。その成果は、年間を通して高齢者率26%、精神科通院者率51.4%、アルコール症罹患率18.5%という状況下においても新規就労者45人（27年度31人）、内就労自活者6人となり、目的達成率64.8%という数値にも現れた。また、旧法人からの丁寧な苦情解決を継承し、日常相談・各種懇談会・意見箱等であげられた利用者からの要望には大小問わず迅速に対応。第三者評価（回答率97.8%）では職員の接遇・態度73%、気持ちの尊重65%などで高評価を得、トラブル対応においても44%の方が信頼できると評価しており、他の男性更生施設に比べ遜色ない評価を得ることにつながった。

また、施設環境整備にも尽力した。特人厚の喫煙室設置工事への協力のほか、全館剝離清掃、自動車配車、自動販売機の設置、トイレの照明センサーの取付け、害虫対策徹底のためのガス乾燥機設置も行い、生活環境の向上と支援機能の充実を図った。更に年度後半では平成29年度厨房工事に備え、4月からの食事提供をスムーズに行うために職員一丸となって準備を行った。

その他にも工夫を凝らした行事（「運営管理」欄参照）や福祉事務所説明会、職員学習会を実施（「施設の社会化」欄参照）し、平成29年度からの新たなチャレンジへの手がかりを得た。

〔利用実績〕

(単位：人)

	年度 累計	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
入所者数	148	14	8	9	8	23	13	11	15	14	3	11	19
退所者数	145	11	8	11	11	18	11	15	16	12	5	8	19
月末在籍数	平均 100.0	101	101	101	96	101	103	99	98	100	98	101	101
27年度	平均 100.3	102	100	101	101	102	101	99	100	100	100	100	98

〔退所理由〕

(単位：人)

	自 活	居 宅 移 管	入 院 除 籍	他 施 設 移 管	任 意 退 所	無 断 退 所	命 令 退 所	等 同 居	帰 郷 ・ 親 族	勾 留 除 籍	死 亡	促 進 社 会 復 帰	そ の 他	合 計
28年度	7	63	8	8	16	19	1	4	6	1	12	0	0	145
27年度	11	61	12	19	12	22	0	9	3	0	5	2	0	156

2 主要目標に対する成果

(1) 専門的支援の実践

心理相談活用（年21回）や医療機関との連携を強化し、病状および衛生面の改善に努めた。

(2) 就労支援の取組

就労ガイダンス・技能講習（年56人）等により、新規就労者数前年対比145%となった。

(3) BCP等に基づく安心・安全な施設運営の推進

ヒヤリハット事例集を作成し、会議で共有化。水害対策マニュアル作成も行った。平成29年度は不審者対策を視野に入れた対応策を検討予定。

(4) 地域における諸機関との良好な対応（「施設の社会化」欄参照）

(5) 苦情等に対する誠実で迅速な対応

意見箱投書68通。個別対応37件・懇談会周知18件・掲示18件・巡回強化18件・補修ほか12件

3 運営管理

- ・職業相談員が状況により面接・就労先確認・通帳作成等へ同行。就労への不安軽減を図った。
- ・バックアップセンターの緊急連絡先提供事業（18件）、転宅ガイダンス、施設独自の住宅相談を活用し円滑な居宅移行支援を行った。
- ・ステップハウス（11人）や社会復帰促進事業（12人）を利用して、緩やかな居宅移行を図った。
- ・給食連絡会（月1回）等を通じて業者との情報共有を徹底し、安全な給食提供と個別対応を実施した。
- ・嗜好調査を反映し献立の改善、新しい食行事（デザートバイキング・寿司バイキング・誕生月夕食会等）を開始。季節感のある食事や家庭的な行事の提供に努め、第三者評価でも高評価を得た。
- ・生活の潤いを目的とした行事と共に利用者のエンパワーメントを図る目的で教養行事を実施した。
- ・教養行事（グループワーク）：酒害相談 月1回（延73人）転宅ガイダンス 年6回（延22人）生活スキルアップ講座 2, 3月（20人）保健栄養教室 年2回（20人）
- ・保健栄養教室・歩行会では高齢利用者を参加者皆で気遣いながら歩き、ゴールした折には自然と拍手が沸きあがり、参加者（職員含む）全員で感動を共有した。
- ・生活スキルアップ講座ではアンガーマネージメントを取り上げ、アットホームかつ、少しでもそよきの雰囲気の中、普段とは違った新たな気づきを共有した。（次年度も継続予定）
- ・毎月の消防訓練（日中想定、夜間想定）及び年2回の消防用設備点検を実施。水害対策についても周知を図った。その他防災倉庫の整理及び非常用食品の追加購入も行き、防災体制強化を行った。
- ・定例の指導会議（月2回）、ケース会議（月1回）を行い、旧法人職員との共通認識を強化した。

4 保健衛生・環境整備

- ・非常勤看護師増員、精神科嘱託医増員により、利用者の体調維持への対応力強化を図った。
- ・専門職が連携して「睡眠」や「健康ウォーキング」をテーマとした保健栄養教室を開催した（年2回）。
- ・入所時の洗濯・荷物消毒を徹底、ガス乾燥機も導入し、防虫対策強化を図った。
- ・居室などの衛生保持のため日常指導に加え、月1回で看護師・指導員での居室訪問を行った。

5 施設の社会化（地域交流事業及び施設機能強化推進事業）

- ・足立区の民生委員や法人理事、台東区新任職員向けに、見学会や連絡会を開催し交流を図った。
- ・月に一回、クリーンデーを実施した（大江戸清掃隊参加者延べ226人）。
- ・葛飾荘と合同で福祉事務所説明会を実施し73人が参加した。
- ・3校6人の実習生を受け入れ、実習指導を行った（社会福祉士）。
- ・支援の連携機関（山谷マック）代表者、実習生依頼先校（東京福祉専門学校）講師による職員学習会を実施し、職員の知識習得とともに相互有益の関係を構築した。

6 福祉サービス第三者評価 評価結果

評価機関：特定非営利活動法人 NPO サービス評価機構 実施期間：H28.11.17～H29.1.31

全体の講評：

特に良いと思う点

- ① ケース会議やケース検討会を通じ、利用者個々に対する支援方針を職員間で統一できるよう取り組んでいる
- ② アンケートなどを通じ、利用者の意見を取り入れ、食の満足度向上に向け改善に取り組んでいる
- ③ 利用者の居住環境の改善と質の向上に積極的に取り組んでいる

さらなる改善が望まれる点

- ① 職員のさらなるスキルアップ、キャリアアップのため年間研修計画の策定が望まれる
- ② ボランティアの拡大に向けたより一層の取り組みを期待する
- ③ 地域貢献及び地域交流を推進し、さらなる施設の活性化の取り組みを期待する

施設コメント：

指定管理法人移行の中で、両法人職員の特性を活かした利用者支援の構築を目指すと共に施設全体の環境整備も重点項目とした。双方について一定の評価を得ることが出来た。

アンケート結果では利用者対応に関する項目、食事満足度等で他の男性更生施設と比較し遜色ない評価を得ることが出来た。

改善が望まれる点①③については次年度主要目標として設定し、取り組んでいく。

